

[成果情報名]リンドウ品種「岡山リンドウ1号」と「岡山リンドウ2号」の育成

[要約]リンドウの2品種「岡山リンドウ1号」と「岡山リンドウ2号」を育成した。両品種は、最需要期である盆と彼岸に出荷が期待できる。

[キーワード]リンドウ、新品種、F₁品種、盆出荷、彼岸出荷

[担当]高冷地研究室

[代表連絡先]電話 0867-66-2043

[研究所名]岡山県農林水産総合センター農業研究所

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

岡山県の準高冷地域でも栽培できる耐暑性を備えた品種を育成するために、F₁系統おかやまオリジナルリンドウ（オリジナル早生）の育成と普及に取り組んでいる。しかし、おかやまオリジナルリンドウは7月下旬に開花する早生系統のみであり、規模拡大と労力分散の面から、最需要期である盆や彼岸に出荷できる品種の育成が望まれている。そこで、本県に適する盆や彼岸に出荷できる品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

- 1) 2001および2002年度から、優良な岡山在来株を自殖・選抜し、早生、中生、晩生系統の優良な親株候補を得た。
- 2) 2006年度に中生系統と早生系統を交配し、盆出し系統と晩生系統どうしを交配して彼岸出し系統を作出した。
- 3) 彼岸出し系統は、2007年度に圃場に定植し、生育・品質調査を行いながら順次選抜を行い、「岡山リンドウ1号」と「岡山リンドウ2号」を育成した。
- 4) 「岡山リンドウ2号」は、2007から2010年度まで、育成地である津山市宮部下と現地3か所（真庭市蒜山、津山市加茂町、西栗倉）で、「岡山リンドウ1号」は、2009から2010年度まで、現地1か所（西栗倉）で現地適応性を確認した。

2. 育成品種の特性

- 1) 「岡山リンドウ1号」は、7月下旬から8月中旬にかけて開花する品種である（表1、2）。花は濃青～青色であり（図1）、花段数は6～7段で、草丈は100～165 cmである（表1、2）。
- 2) 「岡山リンドウ2号」は、9月中旬から10月上旬にかけて開花する品種である（表1、2）。花は淡い青色であり（図1）、花段数は5～6段で、草丈は150～180 cmである（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「岡山リンドウ1号」は、育成直後の品種であり、耐病性を確認していないので、病害が多発する圃場への導入は避ける。
2. 「岡山リンドウ1号」と「岡山リンドウ2号」の開花期は、地域や年により変動が大きいので、導入にあたっては、試作が必要であり、地域ごとの開花時期を検討する必要がある。
3. 「岡山リンドウ2号」は、高温年には、赤軸が発生し、開花が遅れる場合がある。
4. 「岡山リンドウ1号」と「岡山リンドウ2号」は、岡山県内の普及に限定する。

[具体的データ]

表 1 新品種の特徴

品種名	平均開花日 ^y (月日)	花色 ^z	花段数 (段)	草丈 (cm)	シュート数 (本)
岡山リンドウ 1 号	8月4日	2.5	7.3	163	11.7
岡山リンドウ 2 号	9月26日	3.5	6.4	174	14.3
オリジナル早生	7月20日	2.0	5.5	126	9.5

注) 2007年 6 月に定植し、2009年に調査した。調査地は津山市宮部下である。

z) 花色は、1 (極濃青色)、2 (濃青色)、3 (青色)、4 (淡青色) の 4 段階で評価した。

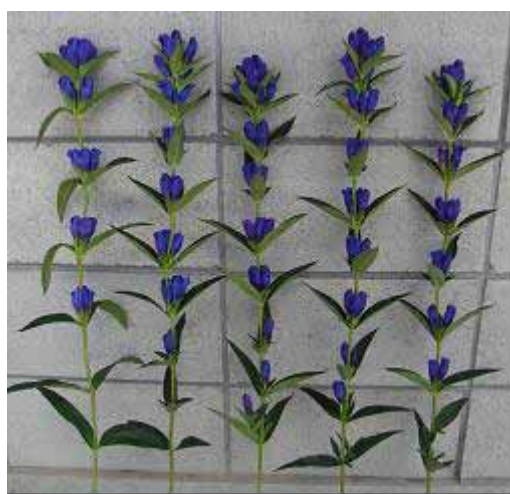
y) 平均開花日は、販売可能な切り花日の平均である。

表 2 育成品種の開花期及び切り花品質

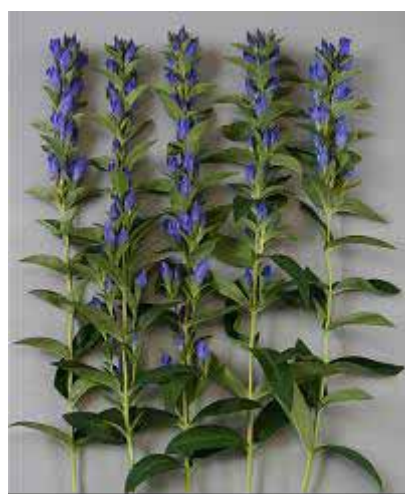
品種名	試験地	開花日 ^y (月日)	草丈 (cm)	花段数 (段)	葉先枯れ ^z	白斑	赤軸発生率 (%)
岡山リンドウ 1 号	西粟倉村	7/25 ~ 8/10	107	4.6	0.0	0.0	0.0
	津山市宮部下	8/4 (平均)	163	7.3	0.0	0.0	0.0
岡山リンドウ 2 号	津山市加茂町	9/10 ~ 10/8	163	6.0	0.2	0.9	4.1
	津山市宮部下	9/26 (平均)	174	6.4	0.0	0.5	0.0
	真庭市蒜山	9/21 (平均)	170	5.6	0.1	0.0	15.0
	西粟倉村	9/上旬 ~ 10/上旬	181	7.9	0.3	0.0	0.0

z) 0 (無)、1 (少)、2 (中)、3 (多)、4 (甚) の 5 段階で評価

y) 開花日は、津山市宮部下と真庭市蒜山では販売可能な切り花日を平均、その他の試験地では聞き取り調査結果である。



岡山リンドウ 1 号



岡山リンドウ 2 号

図 1 育成品種の切り花

(藤本拓郎、森本泰史)

[その他]

研究課題名：オリジナルリンドウの連続出荷と新作型の開発

予算区分：県単

研究期間：2007 ~ 2011 年度

研究担当者：藤本拓郎、森本泰史、森義雄、土居典秀、中島拓